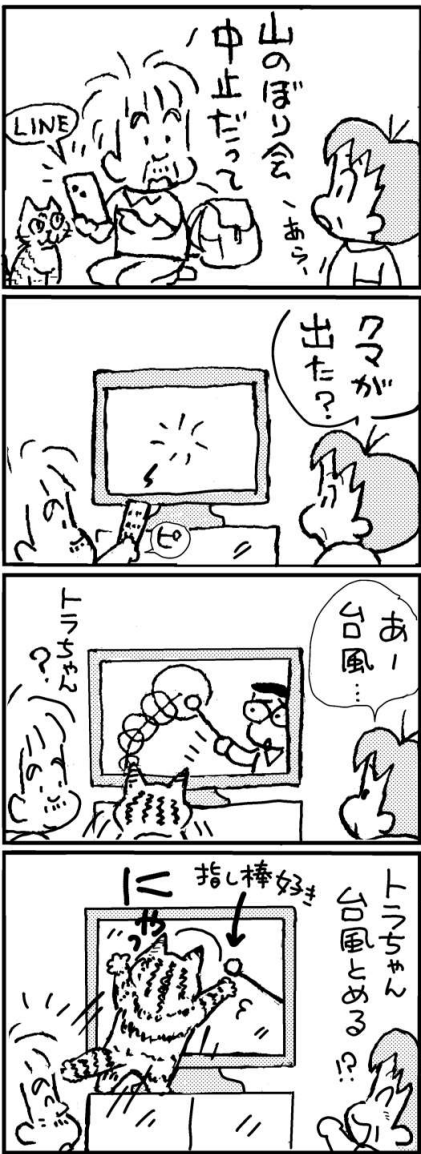


おてんき てんきII

(2024)



もどかしい

岡山市

くろみ

えが見つからずもどかしいです。

父のスイカ

鹿児島市

大塚悦子(70)

気温40度以上の地点が続出したかと思えば、今度は大雨。夏の高湿と大雨が普通になってきています。自然を相手に私たちは何ができるのか、どうすればいいのか、いつも考えさせられます。答

父は生前、スイカを作っていた。たくさん作って市場に出していたが、年老いてからは出荷はしなかった。私が軽自動車の後ろに10個以上積ん

「名誉の戦死」と

母方の伯父は海軍の特攻隊で戦死。母たちにとっては伯父は「名誉の戦死」で、祖父は、戦時中は軍事教練の教官で、傷痍軍人でした。祖父はもろろ恩給があり、亡くなった後は祖母が遺族年金を受給しました。

母にとっては伯父も祖父も名誉あるものでそんな話を聞かされてきた私は大人に近づくにつれモヤりました。母のような人は少なからずいるのか

長野・松本市 くみき

終戦の時5カ月でした

昭和21年7月、父と母は「満州」中国東北部へ行き、きょうだい8人が現地生まれです。他の家族は7カ月後に帰国。

引き揚げ船の中では、生後5カ月の私は、一番先にミルクをもらった。ところが母乳を飲んでいたので、ミルクが飲めず、代わりに母がミルクを飲

4回転校し、疎開先でも

兵庫・加古川市 高野ミズズ

神戸市の国民学校1年生だった12月8日に戦争が始まりました。今年で91歳になります。

学校の6年間に4回転校し、疎開先ではイジメもありましたが、「ハイタイさんのおかげです」

読者がつくる ページ

テーマ 戦後80年と私

一度と戦争を起さなため何ができるのかと考えてしまいます。

一度と戦争を起さなため何ができるのかと考えてしまいます。

「ほしがりません勝つまでは」の気持ち幼い胸に、悲しみつらさを閉じ込め、がんばった子ども時代でした。戦後の生活はさらに厳しく、食料不足で、蛙草、サツマイモのツルなども食べました。味付けは海水で、飢えをしのぎました。少しの物でも分けあって食べるようにしました。戦争ほど残酷なものはありません。戦争反対、友愛の組織の婦人への呼びかけにこたえて今日まで生きてきたのが私の誇りです。

で、職場の同僚に買ってもらった。甘いスイカと好評だった。夏になると、父のスイカを思い出す。

でどう「LINEを送ったら、よく覚えていた。甘いスイカと好評だった。夏になると、父のスイカを思い出す。」

滋賀・米原市

塚本志げ子

川柳
・トイレにて思い出す忘れもの
山口・下関市 平野育子(84)
・ねこ達に言い聞かせる物価高
北海道函館市 富樫アキ子(77)

富山・上市町
甘すぎる
大阪・堺市
ホビット(50)

富山・上市町

亀田良子

選挙までSNS、なにもかもスマホ、世の中があまりにも変わりすぎ

7月26日号の北海道の

佐藤さんの投稿を読んで、自分がおいてきぼりで、私も思っていました。味が濃いのは当然で



広島市 尾下美代子

読者文芸

あなたも俳句

田中千恵子 選

吾が杖はゲンの拳より原爆忌

兵庫 八木 和代

「評」『ゲン』は漫画『はだしのゲン』の主人公の名である。作者の中沢啓治さんは小学一年生で被爆。世の中の矛盾に葛藤の作者は杖を振り上げるが、それはゲンの怒りの拳と同じものだ、と。

玉音は「寿限無」十才の八・一五

東京都 岡崎たかね

「評」一九四五年八月二十五日、昭和天皇の玉音放送が流れ、終戦。その放送は落語の「寿限無」のようで、内容はわからなかったという。

黒板も教師も爆死あの夏は

北海道 細野 悦子

「評」この句の注目は、「黒板も教師も爆死」と、物と人が同価値に書かれているところだ。

香水に隣るはやぶら指定席

長野 吉井 未知

「評」『はだしのゲン』は東北・北海道新幹線。かすかに香る香水に、ふわりと気が華やか

「作品募集」ハガキなどで編集部「あなたも俳句」係まで。作品は未発表のものに限ります。

原稿募集

☆テーマ：墓守どうする？／戦後80年と私／故郷ごはん
投稿や作品をお待ちしています。また、紙面への要望・意見などお寄せください。投稿は300字前後、短くする場合もあります。住所・氏名・年齢・電話番号を、匿名希望の方はペンネームを書いてください。掲載した絵手紙は新婦人のSNSに掲載する場合があります。

あて先 〒112-0002東京都文京区小石川5-10-20
新婦人しんぶん編集部
ファクス03-5805-2372
Eメール s-press@shinfujin.gr.jp

ですが、甘いんです。すべ...
「甘さひかえめ」と...
か堂々と書いてあって...
こんなに甘いのか？って...
加工食品の多いこと...
ヒトにとって甘さは一番...
感じやすい味と言われて...
いるから、甘くしとけば...
おいしいと思ってくれ...
る、と業者は考えるんで...
しょうね。

むらさきは紙の好みや七変化

北海道 橋本喜久子

「評」亡くなったお母さまの好きだったむらさき。今、その色のあじさいが咲いている。

熱中症のマニュアル書かれ困るかな

東京都 小林 富

「評」うちわに書かれた「熱中症」にならないための注意書。今年の暑さは本当に異常である。

立ち止まるメンバ日傘の売り場かな

京都府 花守 綾

「評」今年は特に、男性の日傘姿が多い。

パークゴルフ赤蜻蛉との三三歩

福島県 須田 幸子

里山の薪積む彼と夏館

長野県 まるみ

かすかなるフライラックの香退院日

奈良県 江川 明美